

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

令和2年1月30日公表

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		児童の様子や状況に応じて都度適切に部屋を利用しています。	利用人数と個々の児童の特性に対し、どの部屋を使うか、児童ごとの状況とその日の配置に応じて効果的に部屋を利用できるよう日々の療育スペースを設定していきます。	
	2 職員の配置数は適切である	○		法令で定められた規定は満たし、それ以上の配慮ができる人員で対応しています。	配置は充分規定を満たしていますが、児童の増加に伴い、今後必要があれば適宜、送迎員の増員を検討したいと考えています。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		入り口に段差はありますが、スロープを用いての対応が可能となっています。	現状では車椅子を利用する児童は在籍していませんが、室内はフラットで充分対応可能であり、また入り口には可動式のスロープがあり、該当する児童が利用をされる場合、整備して利用する準備はできています。	
	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		朝礼時に気が付いた点等を話し合っ問題点を見つ解決の検討をしています。	朝礼時やミーティングの時のみならず、常に業務改善をより具体的に取り組めるよう、PDCAサイクルを意識して、活発な意見交換を行なっています。	
業務改善	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートのみならず、いつもご意見を伺うようにしています。	今回が初めてのアンケート調査なので、保護者様からのご意見を参考に、業務改善に繋げていきたいと考えています。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		お便りを配布し、評価表の公表をお知らせいたします。	当事業所では初めての評価表公開ですが、例年は法人としてHPでの公開をしています。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		現状では第三者委員会の評価は行えていません。	今後積極的に検討したいと思います。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内、社外で行われる研修に参加しています。参加できなかった職員へも講義録や勉強会を設けることで周知するよう心がけています。	今後は、職員の資質の向上に向け、職員からの意見や、要望を反映した内容の研修を提案し、さらなる研鑽を心がけて参ります。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		常に児童の状況を把握し、また保護者様からの想いやご意見をすくい取り、療育に反映するよう心がけています。	アセスメントによって保護者様のニーズや利用児童の課題を把握しながら保護者様からの想いやご意見を参考に、適宜、保護者と成長の様子を確認したり、モニタリングした内容を踏まえて計画を修正・更新しています。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		共通の標準化されたアセスメントシートを使用しています。	アセスメントに関しても、利用児童や保護者様、行政のニーズに合わせて適宜修正を考えていきます。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		常に職員同士で気が付いた点などがあれば都度話し合っています。	日頃の療育の中で生まれた活動プログラムのアイデアを職員が積極的に提案し、協働で実施を検討し実現できるよう心がけています。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		土曜日や長期休み等にはレクリエーション活動を行っています。	平日は、限られた時間の中で学習や日常生活の習慣化を覗んだ固定プログラムを基軸としていますが、学校休業日などで時間があるときには、できるだけ児童の興味や成長を促せる楽しい企画を今後も考えて参ります。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		児童の状況を踏まえ支援しています。	個々の児童の状況と支援計画を考慮して、長期には日頃できない充実したプログラムで成長を促し、児童の発達に寄与したいと考えています。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別と集団の組み合わせで日々の活動を行っています。	今後も引き続き、保護者様や学校との情報共有をしながら児童の状況に合わせた計画を作成並びに実践していきます。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日職員間では情報交換を行い、円滑に支援できるようにしています。	もっと詳しい情報を共有するための方策として、申し送りノートやホワイトボード等で情報共有しやすい環境を整えて参ります。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気が付いた点等を共有している	○		時間の関係で支援終了後の振り返りはありませんが、毎日職員が記録を作成し、それに基づいて翌日ブリーフィングを行うようにしています。	特に重要だと思われることについては必ず提案、情報共有、解決策を話し合っています。今後は情報伝達の手段を上記の方策を取り入れてさらに密にしていきたいと思っています。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援の記録、その他書類に関しては、常に正しく記録するよう心がけています。	記録に関しては定期的に職員間で内容を確認し、支援の検証・改善に繋がるよう意見の交換をしています。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		事業所で独自にチェックシートを作成し、ヒアリングに活用しています。	基本的に半年ごとに面談や質問表を活用してモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行っています。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		基本活動は遵守しています。	ガイドラインの総則については勉強会を行い、全員が周知し、基本を遵守することに努めて参ります。	
	関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童の状況を把握している児発管が参画しています。	保護者様や相談支援事業所との担当者会議の他に、必要に応じて学校等に訪問し、担任の先生と話し合い、支援に繋がるようにしています。
		21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		関係機関連携にて話し合いの場を設けています。学校からは、定期的の下校時間のお知らせなど情報を頂いています。	今後も必要に応じて保護者様、学校とも面談を行い、事業所の取り組みや、送迎へのご理解とご協力を頂けるよう努めて参ります。
		22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		医療的ケアが必要な児童は在籍していません。	現在、対象児童の受け入れはありませんが、協力医療機関を近隣に設け、体制は整えています。
		23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		利用していた事業所へ受け入れが決まった時点で、相談支援員を含め可能な限り情報共有をしています。	受け入れ前には事前に事業所内で職員会議を行い、より良い支援の提供ができるよう努めて参ります。
		24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		現時点では、対象となる児童は在籍していません。	現状では対象児童がない為、具体的な取り組みはしていませんが、将来に向けて情報提供ができるよう準備は行って参ります。
		25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		現状では連携を行っていません。	今後は児童発達支援センターや発達障害者支援センターなどの専門機関とも連携を模索して参ります。
		26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		現状では交流の機会は設けるに至っておりません。	今後、検討課題として取り組みを考えて参ります。
		27 (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	○		現状では参加できていません。	北九州・自立支援協議会の定例会議等への参加を手始めとして、行政からの情報共有と児童の将来に向け、地域密着型の支援を検討して参ります。
28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		○		送迎時や家庭訪問の機会を作り、できるだけご意見を伺う場を設けるようにしています。	頂いたご意見やご要望、児童の情報等を活動内容や計画に、いかに反映させていけるかを課題とし、無駄なく生かせるように検討して参ります。	
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		家庭での児童との関わり方の質問等には丁寧に対応しています。	今年度は講演会を行い、保護者様に児童との関わりについて触れて頂く機会を設けました。今後は勉強会を企画して保護者様のお悩みやお困りごとの解決へお役に立てるよう努めて参ります。	
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		法令やサービスの変更などは書面でお知らせするようにしています。	契約時の説明の他、変更があった場合には随時お知らせの配布と口頭での説明を丁寧に行なって参ります。	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		連絡帳・電話、家庭訪問等色々な方法で相談をお受けしています。	ご相談を受けた際には、児童の状況や課題を把握するだけでなく、保護者様の状況や悩みも把握出来るようご相談に応じ、必要に応じて助言をしたり療育に反映できるよう、配慮しています。	
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者同士を連携を支援している	○		参観を定期的に行っています。	今後は参観の際に茶話会などの企画をして、保護者様同士が話しやすく、連携を強めることができるよう取り組んで参ります。	
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		現時点では、苦情のご意見を頂いたことはありません。	現時点では強いご意見やご要望を頂戴したことはありませんが、今後もし、ご意見を頂いた際には、まず、良くお聞きして、現状を把握し、迅速に対応し、問題の改善に努めます。	
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		口頭やHPの更新、お知らせの配布等あらゆる手段で行っています。	季刊発行される「コンパスだより」や、Jr独自の「おたより」を配布している他、諸々の情報はHPにて情報発信しています。	
	35 個人情報に十分注意している	○		十分注意しています。	個人情報記載された書類は取り扱いに充分注意を払い、また施錠可能な書庫に保管しています。	
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		保護者様や児童に合わせて、色々な方法で伝達しています。	口頭での連絡や相談への対応だけでなく、重要なことにはご家族で確認出来るよう書面にてお伝えし、こまめに保護者様とお話する機会を設けるよう配慮しています。	
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		事業所のイベントに保護者様以外の地域の方々をご招待する機会はありませんでした。	行事へのご招待はできていませんが、買い物支援、市民センターや図書館等の地域資源の利用によって地域住民と触れ合いの機会は作っています。今後は地域の方と触れ合える機会を模索して参ります。	
	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		各種マニュアルは策定し、職員間では周知しています。	マニュアルは、定期的に職員会議にて対策を再確認しています。保護者様への周知については徹底されていませんでしたので、今後は周知の方法なども検討して参ります。	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		今年度は座学での防災学習を行いました。	今年度は座学での防災学習を行いました。その開催実施には、事前に避難訓練実施の「お知らせ」を配布する予定です。	
非常時の対応	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止への研修を定期的に行っています。	児童への虐待は最大の人権侵害であるため、行政が主催する「障害者虐待防止啓発研修」等積極的に参加し、事業所内の防止と虐待を受けている児童を発見した際の対応等、研鑽を深めたいと思います。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		契約時に、詳細に説明を行なっています。	利用契約書に身体拘束の禁止を記載しており、生命又は身体を保護する為やむを得ず身体拘束を行う場合は、あらかじめ文書により保護者の同意を得ることとしています。	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		児童の食物アレルギーについては職員会議を行い、おやつや購入時にも原材料に注意し、アレルギーのある子どもを全職員で把握できるよう徹底しています。	医師の指示書の提出はまだありませんが、保護者様へのヒアリングにて十分注意をして取り扱っており、今後も充分注意を行って参ります。	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット報告書は全職員で確認しています。	ヒヤリハット報告書を定期的に確認し「事故を起こさない」ことを目指して話し合いを行って参ります。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。